

# 院内看護研究会記録

## 3-4病棟における病棟認定コーチ制度の導入

3-4病棟 増田 江美 梶原 聡子  
下村 里美 南條 久乃

### I. はじめに

3-4病棟は脳外科・神経内科を中心とした病棟である。病棟には脳神経看護領域に関わる、脳卒中リハビリテーション看護、認知症看護、摂食・嚥下障害看護の認定看護師が配属されている。各認定看護師は知識・技術・看護における専門性をもち、それぞれの役割とされる実践・指導・相談を果たすべく活動を行っている。今回、脳神経病棟として、病棟スタッフが自ら学びを深め、積極的に専門性を身につける場として病棟師長を中心に病棟認定コーチ制度を立ち上げた。その第一報として摂食・嚥下障害看護のコースについての報告をする。

### II. 目的

#### 1. 病棟認定コーチ制度

認定看護師から専門性を直接学び、それぞれの認定看護師を補佐できる病棟看護師の育成と、病棟看護師が自分の得意分野を持ち病棟スタッフに指導ができることで病棟の看護の質の向上につなげることがこの制度の目的である。各領域の認定看護師の専門分野について勉強会等で知識を習得し各認定看護師が定める検定を受け合格した者を病棟認定とする。病棟認定を受け、新人や異動者への指導、患者・家族への指導をする者の育成を行う。

#### 2. 摂食・嚥下障害コース

脳血管疾患の患者では急性期において60%に嚥下機能障害が出現するといわれている。その後時間の経過とともに症状は軽減していくが、約30%の患者に嚥下障害がみられ、慢性期まで残存する患者は5%といわれている。3-4病棟でも摂食・嚥

下障害があり経鼻経管栄養を行う患者が多い。経口摂取の可能性の有無、適切な訓練方法の選択や誤嚥性肺炎の予防を目的として、スタッフが正しく嚥下評価を行うことができ、摂食・嚥下機能に関する知識を高めていくことが目標とされる。

### III. 方法

#### 1. 対象

3-4病棟所属の看護師で認定コーチ制度摂食・嚥下障害看護コース立ち上げ時に受講の希望があった看護師3名

#### 2. 講義方法

集合学習で行なった。参加体験型学習を盛り込み、臨床での看護場面での設定と実際の技術提供をする場を企画し、審査を行う。

#### 3. 講義の実際

平成25年10月～12月の3ヵ月間、月に一回の講義を行った。各講義後に知識の確認テストを行って、最終的に実践の評価を行った。第一回目の講義のテーマは「口腔機能の理解ができ、正しい食事介助の方法を身につけ、指導ができる」とした。第二回目は「摂食・嚥下障害の原因を考えることができ、スタッフにアドバイスをすることができる」、第三回目は「嚥下評価ができ、嚥下障害に対する訓練法を計画し、実施、指導することができる」というものであった。講義では座学に加え、食物形態の食べ比べや事例検討も行った。3名の受講者は各講義後の確認テストも合格し実践に入った。実践では実際に患者の嚥下評価を行い、以降はその患者の担当として継続して評価を行っている。その際、その評価や立案した訓練が適切であるかを検討するため摂食・嚥下障害看護

認定看護師（以下、認定看護師）と交互に評価を行っている。

#### IV. 結果

この病棟認定コーチ制度を受講した3名の看護師は、希望してこの制度を受講したことからもわかるように、以前からこの分野に興味を持っていた。現在では3-4病棟での専門的な嚥下機能評価はこの3名が行っており、評価、訓練の立案、食物形態の選択などは問題なく行うことができている。しかし、受講者からは講義内容が多く3回では難しい、実践に不安がある、といった意見が聞かれた。周囲の病棟スタッフからは高評価が得られており、認定看護師が不在の際には次の出勤まで保留になっていたことが認定コーチの誕生でタイムリーに相談できるといった意見が多かった。しかし、勤務時間外に評価を行っている姿を見て「大変そう」という意見もあった。

院内で摂食機能療法加算が導入されて一年が経過した。病院スタッフにも徐々に周知され、算定患者数も増加している。脳神経病棟である3-4病棟はもともと算定患者が多いことは当然であるが、平成25年10月の時点で3-4病棟の算定件数は院内全体の29.8%であった。しかし、認定コーチを導入し活動し始めた平成25年12月には院内の53.8%を占めるようになってきている。

#### V. おわりに

現在は3名の看護師が認定コーチとして患者の嚥下機能評価と摂食機能訓練の選択を開始している。先にも述べたように、認定看護師が一人で嚥下機能評価を行っていた時に比べ3-4病棟での摂食機能療法加算の算定患者は明らかに増えている。また、認定看護師のみで評価を行っていた時には依頼を受けた患者の評価に加えて自ら嚥下障害が疑われる患者を抽出して関わっていくには限界があった。現在は認定コーチが増えたことにより看護師サイドで積極的に介入ができるようになってきている。病棟スタッフも認定看護師だけでなく、認定コーチにも声をかけ相談をすることで摂食・嚥下障害に関する知識が増えていくことが考えられる。その結果、病棟内で経口摂取を開始できる患者も増えてきている。病棟認定コーチの3名は自分の担当している患者の訓練の成果や食物形態が上り元の生活に近づいていく姿をみることができ、周囲の病棟スタッフからも認定コーチとして認知され自信にもつながっていると思われる。そして今回学んだ知識を持って患者に関わることでこの分野を得意分野として病棟の看護の質の向上につながっていると考える。今後の課題としてはこの3名が積極的に入職者や勤務異動者の指導や、患者・家族指導に介入できるようにしていくことが必要となる。

### 3号館での防災の勉強会を行って

3-7病棟 高橋 涼子 牧野 仁美  
五十島 暁子 野田美由紀

#### I. はじめに

東日本大震災以降、防災から減災の意識に世の中がかわりつつある。私達は災害が発生した場合に、自分自身の身を守りつつ、入院患者の安全確保の為、災害状況に応じた判断と行動が必要となり、その為には平時からの研修、訓練が必要である。

当病棟は昨年11月に3号館へ移転し、災害発生

時の初動体制や施設・設備の理解に曖昧な部分があり、不安を感じていた。

そこで、災害時初動体制を知ること、病棟内の防災設備の確認、体験を目的に勉強会を行った。今回スタッフへのアンケート調査を行い、その評価と今後の課題について報告する。